

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2021.6.21

第74号

人権・同和教育だより 丹波篠山

発行
丹波篠山市
人権・同和教育研究協議会
TEL-FAX 079-593-1260
<http://t-s-doukyou-hr.jp>
〒669-2734 丹波篠山市宮田240
丹波篠山市役所 西紀支所3F
年3回発行 6・10・2月

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 2021年度活動計画について

5月15日(土)に「丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 第23回定期総会」を開催予定しておりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、代議員のみなさまに書面決議をいただきました。議案は2021年度活動方針および事業計画・予算を含め、すべて承認されました。

基本方針(要旨)

- 今なお存在する部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、すべての人の幸せにつながる「人権のまちづくり」を推し進めます。
- 「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」等人権関係法令の趣旨を踏まえ、人権確立をめざす個人、団体、機関等と広く連携し、差別のない共に生きる社会をめざします。
- 市民の人権・同和学習活動の場を充実し、差別を許さない市民意識の醸成、人権意識の高い人づくり・世間づくりに努め、こころ豊かな共に生きる市民社会をめざします。

活動方針(要旨)

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消に向けて取り組んできました。

しかしながら、私たちの社会は、高度情報化、少子高齢化、産業構造の変化やそれに伴う経済格差の拡大等々多くの問題を生じ、その結果、人間関係の希薄化や地域内での連帯感の欠如を生み、他人の痛みに無関心になるなど人権に関わる大きな問題を発生させてきています。また、認知症への無理解や偏見、児童や高齢者への虐待、子どもや若者の貧困、ひきこもりに関わる問題、DV、ストーカー行為、LGBTなど性的マイノリティへの無理解、インターネットによる差別情報の氾濫、様々なハラスメント、女性蔑視問題など、まだまだ人権意識が定着していない現実がみられます。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大から新たな人権に関わる問題も見えてきました。

こうした多くの課題解決のために、今まで市民一人ひとりが学習や研修で培ってきた人権意識を呼び起こし、自分の差別性を振り返り、これらの課題を当事者意識を持って対応することが、連帯感を育み、共に生きる社会の意識を強めることにつながります。そしてそのことが「差別を許さない市民意識の醸成」(人権の世間づくり)へと進めることができ、誰もが幸せを実感できる、人権を大切にしたまちづくりの実現につながるのです。

本年度も、これらのことの大切にしながら、市民の皆様と共に、市民一人ひとりの人権が侵害されることなく、誰もが幸せを実感できる、人権を大切にしたまちづくりを進めます。



2021年度の出発にあたり 一心あたたかな丹波篠山市の風土を一

会長 溝畑 賢

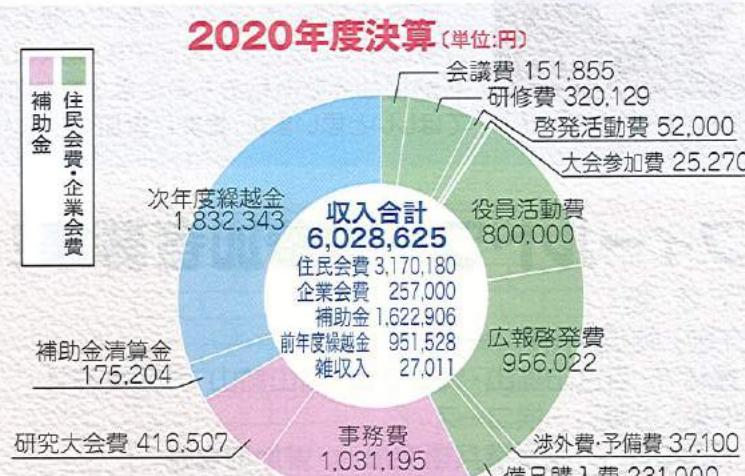
昨年度はコロナ禍での1年でした。今年度は不安を一掃し、新たな気持ちでスタートしたいと思っていましたが、新型コロナウイルス感染症の変異株による急激な感染拡大の第4波の中で、より一層不安を感じるスタートとなってしまいました。

自粛の生活、営業時間短縮や休業要請等々、今までとは違い、先の見えない経済的な苦しさの中での生活など今まで経験したことのない日々が長く続く暮らし。テレビなどの情報から知る献身的に治療や看護にあたっておられる医療従事者の皆様、感染への不安の中で高齢者への介護に従事しておられる施設関係者の皆様、その他感染症の最前線で仕事をしておられる多くの方々へのご苦労や感謝の念が強くわいてきます。他の人と触れ合はず共に活動できない中にいる今、先ほどの感謝の思いが強い自分と不安の想いを持つ自分がいるのも事実です。コロナ禍の今、素直に自分も他の人も健康でいたいですねと強く呼び掛けたい思いです。

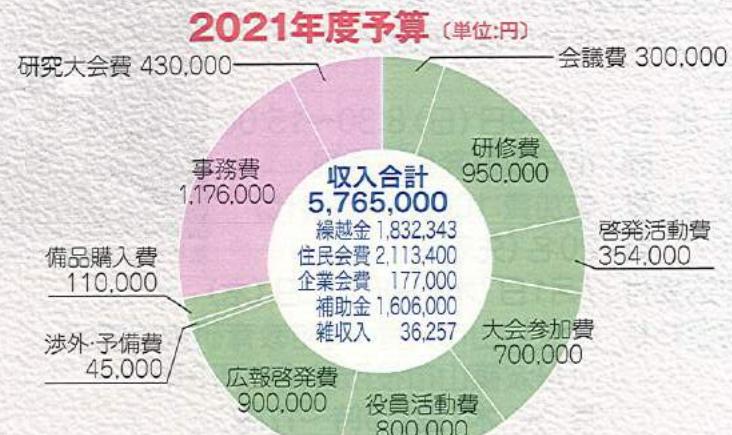
こんな中での暮らしだからこそ、人を思いやり、人の健康を願う気持ちなどをみんなで強く持ち、この苦難を乗り越えたいものです。

丹波篠山市同教では、今年度も大変厳しい制約の中、手法を工夫しながら「人を大切にする思い」「人間の素晴らしさ」等々、人権意識の大切さを訴えていきたいと思います。そして、新型コロナウイルス感染症に感染された方には「お大事にね」治療後帰られた方には「お帰りなさい」など心あたたかな丹波篠山市の風土をみんなでつくりあげていきましょう！

皆様のご健康をお祈りしますとともに、今年度も丹波篠山市同教へのご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。



※補助金は、市からの補助金8,941,000円より人件費7,335,000円を除いた事業補助金です。



※補助金は、市からの補助金8,941,000円より人件費7,335,000円を除いた事業補助金です。

※2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会などの活動を自粛しました。その結果、事業費等の繰越金を例年より多く繰越しましたので2021年度に限り特例措置として会費を減額しました。

「人権・同和教育セミナー」受講のお知らせ

自分の人権意識をより一層高めるため、「人権・同和教育セミナー」連続講座を受講してみませんか。

丹波篠山市同教では、人権学習をもっと深めたいと考えておられる方や、次世代の人権教育研究のリーダーとなる方の養成のため、1年間にわたる連続講座を行います。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止ましたが、こうした研修の場に参加したいと多数のご要望を受け、今年度、新型コロナウイルス感染症対策をし、再度企画しました。受講のお申し込みをお待ちしています。

参加費：無料 会場：丹南健康福祉センター 研修室

日程・内容など

	実施予定日	テーマ	内 容	講 師
1回	7月24日(土) 14:00~16:00	差別とは 差別の現状と 課題	差別の構造 根強く残る差別の 現実	関西学院大学 細田 勉さん
2回	9月4日(土) 14:00~16:00	人権の歴史1	古代～中世～近世 ケガレ意識と差別	元大阪市立大学 上杉 聰さん
3回	10月2日(土) 14:00~16:00	丹波篠山人権 の歴史	古文書に見る丹波篠山の 人権の歴史 差別と闘った先人に学ぶ	丹波篠山市部落史研究会 今井 進さん
4回	11月3日(水) 14:00~16:00	人権の歴史2	明治解放令～現状 強まつた差別	元大阪市立大学 上杉 聰さん
5回	1月29日(土) 14:00~16:00	差別をなくす 主体者として	差別のない社会を ～自他ともに輝くために～	三木市人権・同和教育協議会 春川 政信さん

お申し込み先：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 事務局
電話/FAX：079-593-1260

みんなの人権を考える映画会

映画『ぼけますから、よろしくお願ひします。』
入場無料

とき 2021年8月9日(月・振替休日)14:00~
ところ 丹波篠山市民センター・多目的ホール



娘であるテレビディレクターが、認知症を抱えた自らの母親と、その母親を支える父親を家族の内側からとらえたドキュメンタリー映画です。病気に苦しむ母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨てて実家に帰る決心がつかずゆれる娘。そして娘は、両親の記録を撮る事が自分の使命だと思い始めました。

映画会を通して、とくに高齢化の進む丹波篠山市で、私たちに何ができるか、また高齢化社会での私たちの生き方を自問してほしいと思います。是非ご参加ください。

製作・配給委員会

フィールドワーク参加者募集!

○行き先

〈午前〉 硅石鉱山跡コース
豊林寺・百合山鉱山・火薬庫跡・鳥山鉱山・九頭女神社

〈午後〉 世直し一揆コース
旧国里邸・一揆軍藩兵衝突の地・曾地刑場跡

※コースは都合により変更することがあります。

※バスで移動しますが、一部山歩きをしますので運動靴等でお出かけください。

○実施日 8月29日(日)8:30~15:00

○講師 市同教啓発推進委員

○参加費 参加費:1000円(昼食代)

○定員 20名(先着順)

○申込受付 7月1日(木)~8月12日(木)

○問い合わせ 丹波篠山市人権・同和教育研究協議会

(丹波篠山市役所西紀支所3階)

月・火・木・金 9時~17時

TEL・FAX 079-593-1260



豊林寺に設置された銘板

研修に「丹波篠山の人権史跡」を巡る フィールドワークをやってみませんか?

人権史跡を知ることは、私たちの先人の生き様を知ることです。
市内には、過酷な藩政に抗った人々の足跡や生活向上のために立ち上がった人々の碑、教育や文化の拠点など様々な史跡があります。

そうした史跡を巡ってみませんか? フィールドワークを希望される団体には、市同教より、上限1万円の講師料を補助します。詳しくは丹波篠山市同教までお問い合わせください。

お問い合わせ先: 丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 事務局
事務局: 丹波篠山市宮田240 丹波篠山市役所西紀支所3階
TEL: 079-593-1260

理 顧 会 会 副 会	役員紹介
森 山 藤 計 中 太 足 藤 細 五 会 溝	
事 本 問 田 田 監 村 計 田 立 田 見 十 長 畑 長	
選 出 正 俊 福 直 鈴 貞 泰 田 治 造 悟 潤 賢	
名 己 朗 夫 美 子 治 田 潤 賢	

編集委員紹介

安井 聰博 西田こず枝 西 ゆり子
細見 秀司 中井慎太郎 森田 貞二

本年度も引き続き、6名の委員で編集を行います。会報が皆様に親しまれ、人権をより身近なものに感じていただけるよう、紙面づくりに取り組みます。

※掲載しております研修会やイベントは、新型コロナウイルス感染拡大状況により変更や中止になる場合があります。市同教ホームページまたは電話などでお問合せください。

暮らしの中から

2020年度は、社会全体が「新型コロナウイルス」に翻弄されました。「コロナ差別」にも直面し、私たちの「弱さ」を痛感したところです。そこで、過去の掲載記事を振り返り、私たちを取り巻く「人権課題」を改めて見つめ直したいと考えます。

人と関わって生きるということの難しさ、大切さ

コロナ禍で、ソーシャルディスタンス、多人数での会食禁止等々、今までにないエチケットが生まれた1年半でした。また、不要不急の外出が求められる生活が続き、人との関わりの大切さを知る苦悩の月日もありました。

13年前「引きこもり」をテーマに本紙の取材で、当時は明野にあった引きこもりを支援するNPO法人「結」の交流館「しゃべり場」を訪れたことを思い出し、人と関わることの大切さを改めてうかがうべく、理事長の井上一休さんに会いに行きました。

井上さんがこの活動を行ったのは、小学生の娘さんが「不登校」になったことから始まります。まだ世間では「職場・学校に行けない人」は怠け・わがまま・甘えと受け取られていた時期でした。私も井上さんと出会って現状の話を聞くまで同じように思っていました。当時、井上さんに「しゃべり場」に通っていた青年を紹介していただきました。彼は18歳から4年間引きこもっていて、母親が保健所へ相談し「しゃべり場」を紹介されたそうです。私は彼に対して「社会に何か不満があるのか」と尋ねました。彼から返ってきたのは「社会を悪いとか冷たいと思ったことはありません。でも社会を実感したい」という切実な返事でした。今でも残酷なインタビューをしたと反省しています。

今、井上さんは、活動の場を東吹に移し「遊び村」を10年前から開村されています。約1500坪の敷地には「ちびっ子の乗り物」「お山滑り台」「小動物(ネコ・ウサギ)ふれあい広場」などがあります。引きこもりの要因はさまざま、不登校・過保護・無関心・愛着障がいなど、課題を抱える子どもたちもあります。井上さんは「あそび場」の活動を通じて、不登校になる前の学びとなる「小さいころから体を動かし人との関わり、仲間づくりを体感できる環境」を提供されています。天気が良ければ、一ヶ月におよそ800人が家族同伴で来村されるとのことです。

コロナ禍で出会いの場が少なくなることで、さらに「引きこもり」に拍車がかかるのではと懸念されており、「コロナ禍を切り抜けば、もっと楽しい催しをしたい」との意気込みで環境を整えておられます。「社会に出たらいいろいろな人がいるので、人との関わりの機会が増えることが人間関係のレッスンになる」とも。子どもたちが思いっきり遊べるようになれば「あそび場」にも出かけてみてはいかがですか。連絡先:井上一休 090-1900-6932 (西 ゆり子)

あれから5年、続「子どもの人権」

5年前、「子どもの人権」というテーマで、以下のコラムを書きました。

——たまに家の前を散歩する3歳ぐらいの男の子が、元気よく「こんにちは」と挨拶をしてくれました。それも嬉しかったのですが、私がこたえたときの、その子の満面の笑みがとても印象的でした。



そんな日常とは裏腹に、特に気になるのが児童虐待です。こども家庭センターの統計によると、兵庫県下の相談件数は2014年度で2,657件と、児童虐待防止法施行前の1999年度と比べると5倍以上に増えています。目を背けたくなるような事件もあり、怒りの心境です。

子どもを「モノ」扱いしていませんか。私の息子も3歳。一人の人間として、いろいろな考えを持ち始めるころです。日々の忙しさに追われることもありますが、「子どもの権利」を意識し子どもとしっかり向き合い、子どもからの発信を大切にしなければ感じています。——

私の息子は8歳になりました。あっという間の5年、成長しました。一方で親である私は、それだけの責任を果たしただろうか、と自省の念ばかりです。

というのも、あるとき息子から「父さん、今日も仕事遅いやろ。この前も約束どおりに早く帰ってこなかった」と言いました。息子には「約束を守れ」と言っているのに、自分は守っていない、仕事のせいにしている、謝るしかありませんでした。

子どもは大人が思う以上に、親のこと、家族のこと、友達のこと、そして学校のことをよく見ています。そこから、どうすべきかを自分なりに考え行動しています。この5年間で、それが本当にわかりました。

ふっと気になって兵庫県こども家庭センターの資料を見てみると、2019年度の児童虐待相談件数は8,308件と、5年前から3倍以上に増えているのです。想像以上の数値で衝撃でした。ニュースや新聞で報道される以上に、子どもが置き去りにされている現実が目の前にあります。

私の息子の就寝時間は20時過ぎです。それまでに帰宅できるよう頑張っているところです。帰れないときは、できるだけ家に電話をするようにしています。すると必ず息子が出てこう言います。「父さん、気付けて帰ってきてや、おやすみ」。疲れた心に染みわたる“子どもからの発信”です。

(安井 聰博)

主な行事予定

*9月26日(日)

兵庫県人権教育研究大会 中央大会兼丹波地区大会

会場: 兵庫県立柏原高等学校

*11月13日(土)、11月14日(日)

全国人権・同和教育研究大会 新潟県大会 上越市

*12月11日(土)

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会研究大会 会場:四季の森生涯学習センター他



編集後記

最近、SDGs(エス・ディー・ジーズ)という言葉をよく見聞きするようになりました。SDGsとはSustainable Development Goalsの略称で「持続可能な開発目標」を言います。2015年の国連サミットで採択されたもので、「この先の世界が今以上によくなるために、2030年までに世界の人や企業など全員で協力して解決したい17の目標」のことです。

17の目標の中には「貧困をなくそう」「ジェンダー平等を実現しよう」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公正をすべての人に」など、人権に深く関わりのある目標が掲げられています。さらに、「飢餓をゼロに」「住み続けられるまちづくりを」「気候変動に具体的な対策を」など、SDGsの掲げる17の目標はすべて少なからず人権に関わっています。つまり、すべての人にとって日々の生活に関係があるという事です。一人でできることは小さいかも知れませんが、日常の中で少しでもSDGsを意識して生活してはどうでしょうか?

(SDGsとは <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)